

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：令和元年8月1日（木） 18時30分～20時05分
2. 開催場所：兵庫県赤十字血液センター西宮出張所（にしきた献血ルーム）
3. 関係団体等：神戸大学、兵庫県赤十字血液センター
4. 役割
挨拶・司会：平井みどり（兵庫県赤十字血液センター所長、第二部会員）
講師：曾良 一郎（神戸大学大学院医学研究科教授）

5. 概要：

演題：「ネット、ゲーム依存について ～彼らはなぜネットやゲームに依存するのか～」

神戸大学医学部附属病院では、精神科外来でネットやゲーム依存の治療を行なっている。演者の曾良教授は、精神神経科臨床医であるが、薬物依存の基礎研究経験者であり、現在問題になりつつあるネット・ゲーム依存の治療を医師・臨床心理士などを含めた10人体制で実施している。全国的にも数少ない外来のため、現在は4ヶ月待ちの状況である。講義は、ネット・ゲーム依存の現状と、症例に基づく説明、脳内の変化、発達障害との関係、薬物依存のメカニズムとの比較、などについてわかりやすく説明された。依存患者のサマーキャンプについても説明があった。

献血ルームは待合室がカフェのような内装で、飲み物も自由にとれるため、本当に「カフェ」での講演になった。リラックスモードで、参加者からの質問も多く、実際に依存の子供さんを持つ方や、依存が心配な親御さんから具体的な質問が出され、演者は一人一人に丁寧に回答された。中高年のスマホ依存による「スマホ首」についての質問もあった。

ネット・ゲーム依存は、教育界では関心が高いが、決して若者だけの病理ではなく、社会的認知度がまだまだ低いこと、政策決定権を持つ年代層や医療従事者の間に認識が低いことが問題であるとの指摘が演者の方からあった。このような機会を利用して、社会に広く発信していきたいと感じた。

6. 参加人数：

講演者、スタッフ：7名

一般参加者：14名

7. 特記事項：

特になし